

あさひ舟川「春の四重奏」

富山県朝日町



写真 舟川べり桜並木

あさひ舟川^{ふながわ}「春の四重奏」(表紙写真[※])は、残雪の朝日岳・白馬岳を背景に、桜並木とチューリップ、菜の花の四重奏を楽しめる、朝日町が誇る春の絶景である。

桜並木は、舟川の兩岸1,200mに渡り、約280本のソメイヨシノが見事な桜のトンネルを形成する(写真)。「将来ここでお花見を楽しもう」と、1957(昭和32)年に舟川の河川改修の際、地元舟川新地区の住民によって、ソメイヨシノが植えられたのが始まりである。下草刈り、剪定、防除、ゴミ拾いなど、「自分たちの桜」という誇りを持ち、長い年月をかけ管理が行われてきた。管理のひとつである「お礼肥え」は、チューリップの球根を大きく育てるために摘み取った花びらを桜の根元に撒くことで桜の幹を大きく育てる。他にも、桜の咲く時期に合わせて選定された極早生品種のチューリップ、菜種油を採るために植えられた菜の花など、農家の方々による様々な試行錯誤が、舟川べりの奇跡的なコラボレーションを生み出した。

雲雀^{ひばり}が鳴く頃、舟川べりは春爛漫を迎える。

※) 表紙写真 写真提供:ピクスタ ぱりろく/PIXTA(ピクスタ)

■アクセス

- あいの風富山鉄道泊駅から無料臨時バス約10分
- 北陸自動車道朝日ICから約5分

(表紙の写真)

あさひ舟川「春の四重奏」

場所: 富山県朝日町



<参考>

一般社団法人朝日町観光協会「あさひ暮らし旅」

<https://www.asahi-tabi.com/sijuusou/>